

## ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第23回〕

## 弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

## 音大生(器楽科)の生活

音大生は一体どんな生活をしているのか、僕が通っていた時の事を思い出しながら書いてみたいと思います。

まずざっくり一言で言うと、実力至上主義です。あからさまに皆口にしませんが、「下手くそな奴に人権は無い」みたいな風潮がなんとなくありました。

カリキュラムを取るために一般の科目ももちろんあります。

その他音楽理論や、音を聴音したり楽典を学んだりするソルフェージュもありです。弦専攻は、オーケストラにもいくつかエントリーして年間に数回演奏します。オプシヨンを室内楽も学べます。

しかし、皆が特に重きを置いてるのは、年に1、2回ある実技試験。点数をつけられ、オーケストラの席順までそれで決まるという、なかなかあからさまな世界です。そして、大きなコンクールで成果を残すべく着々と沢山の曲目を日々練習するという毎日です。

基本的にレッスンは週に一度あり、ほとんどの人は楽器を触らない日はあまりないでしょう。

僕が一番驚いたのは、廊下で5メートルおきくらいの距離で、学生がヴァイオリンやチェロを鬼の形相で練習しまくっていたことです(僕が通っていた某桐朋学園大学だけかもしれ

ません)。

今は改築されていて、そんなことがあるかどうかはわかりませんが、人数に対してあまりにも練習室の数が足りなく、朝5時から練習室の争奪戦が始まり、それに敗北してあぶれた人が、廊下で弾いていました。まるで蟻塚から溢れ出た蟻を連想させられました。

そして男は圧倒的に数が少なく、ハーレム状態です(まあ僕は真面目に生きていましたけどね)。

しかし実力至上主義ですから、その中で凌ぎを削って生きている女性達に、上手ければモテます。下手だったら…。まるで我々がかつて狩猟採集民族だった時に、力があるものが群れを束ねていた事を思えば、なかなかシンプルで原始的な思考ですね。

僕はその後、富山にある大学院に進学し、2年間のうち、最後の1年はTSUKEMENと学生の二足のわらじをはいていました。

当時まわりに何もなくて(クリーニング屋さんだけ)食えることが唯一の楽しみでした。

最後に、以前TSUKEMENのブログで好評だったパスタのレシピを紹介します。

これは大学院時代の同じキッチンで、苦楽を共にした友人が考案した、手軽で身体に良い美味しいパスタです。

よかったら試してみてください。



## profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。  
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。  
2010年キングレコードからメジャーデビュー。  
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。

## [苅田スペシャル]レシピ《1~2人前》

## 【材料】

・パスタ 食べられそうな量・長ネギ まぐろの臭みが消えそうな量  
・ひきわり納豆 1パック・卵 1個・まぐろのたたき 150~200g  
・塩・家にあるタレ(オススメはカマダのだし醤油)

## 【作り方】

- A** 1.お湯を沸かす  
2.海か、っていうくらい塩を入れる  
3.食べられる量の麺を入れ、時間を測る
- B** 1.ボウルにマグロと、卵と、ひきわり納豆を入れる  
(三つ巴くらいの分量にするのが鍵)  
2.長ネギを細かく刻んで入れる(面倒ならネギは省いても可)  
3.タレをセンス良く入れる  
その他、お好みアレンジを加える(生姜、ミョウガ、長芋すりおろしetc.)

**A**の茹で上がった麺の上に**B**をかける!  
和製ミートソースのような雰囲気になれば完成です。